

## トノサマガエル

*Rana nigromaculata*



種名

分類

無尾目アカガエル科アカガエル属

俗称

形態的な  
特徴

トノサマガエルの体長は、オス5.5～8cm、メス6～9cm。日本産のカエルのなかでは例外的にオス・メスで色彩や模様が異なる。一般にオスは背面が黄金色あるいは緑色で、背中中央に緑色または黄色のラインがある。メスは背中中央に太くて白っぽいラインがあり、その両側には不規則に融合した黒い斑紋がある。

分布

トノサマガエルは、関東平野から仙台平野を除く本州と四国、九州に分布する。トウキョウダルマガエルは、本州の仙台平野、関東平野、新潟県中部・南部、長野県中部・北部に分布する(両種とも北海道の一部に人為移入)。一部の地域を除いて、両種の分布域は重ならない。

繁殖行動

トノサマガエルの繁殖期は4月～6月で、主な繁殖場所は水田である。夕方になるとオスは水田に集まって鳴き、コーラスと呼ばれる集団を形成する。近づいてきたメスにオスが抱きついて抱接すると、メスは水底にゼリー状の卵塊を産む。卵は約1週間でふ化し、幼生(オタマジャクシ)はおもに植物質を食べて成長する。6月から9月頃に変態し、上陸した幼体は水田脇の畦や土手などの地上で生活する。オス・メスとも変態した翌年の秋には成熟し、3年目の繁殖期から繁殖に参加する。10月中旬から翌春まで水田や周辺の畑地の地中で冬眠する。寿命は3～4年。

生息場所

平地から低山地の水田や小川とその周辺の畦、草むらに生息する。かなり水辺から離れることもある。

食性

幼体や成体は水田周辺のクモ類や昆虫類の他、小型のカエルなどを食べる。

生息環境へ  
の配慮事項

両種とも水田環境と密接に結びついたカエルであるが、近年の宅地開発などにより水田環境そのものが失われ、生息地が減少している。また、農地整備などで垂直なコンクリート護岸壁となった水路では、本種のように指に吸盤のないカエルは、落ちたら這い上がれなくなってしまうため、個体数が減少している。水路を整備する際には、本種のように一度落ちてしまうと這い上がることができない小動物のための配慮が必要である。例えば、護岸壁を垂直にせず傾斜をつける、壁面に凹凸をつける、ところどころに小動物の脱出口を設ける、などの方法が挙げられる。

引用文献：[http://www.maff.go.jp/nouson/mizu\\_midori/menu/main.html](http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html) を改変